

特別展
没後50年

木山捷平展

《私は牡丹の花よりも ねぶかの花が好きだ。》

万人を魅了する美しさはないが、しっかりと命を伝える力強さがある素朴な“ねぶか”の花《ネギ坊主》を愛した木山捷平さんが世を去って50年の歳月が流れました。木山捷平さんは、高貴な花、きらびやかな人生を描くことはなく、何よりも市井に生きる人々の哀歓と反骨を飄々と描き続けました。

はじめ詩人として文学の世界に入り、終生、詩人としての純粋な詩魂を失うことなく、後の小説作品の核として光彩を放つことになりました。優しい心情を讃えた珠玉の作品を生み出し、いまでも多くの人に愛読されています。

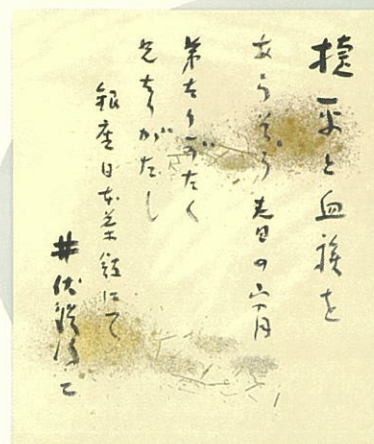
ここに、「木山さん、捷平さん」と慕われた木山捷平さんの特別展を開催できることを嬉しく思っており、多くの方々にご覧いただければ幸いです。

2018.5.13日 - 7.29日 吉備路文学館 KIBIJI LITERARY MUSEUM

併催 企画展「吉備路ゆかりの文学者を知る」〔展示文学者〕正宗白鳥、内田百閒、吉行淳之介 ほか

木山捷平 略歴

- 明治37 岡山県小田郡新山村字山口(現・笠岡市山口)に生まれる。
- 大正11 県立矢掛中学校(現・矢掛高校)を卒業。姫路師範2部に入學。
- 大正12 兵庫県出石郡弘道尋常高等小学校に勤務。この頃詩作に専念。
- 大正14 父に無断で退職し、上京。東洋大学文化学科に入學。赤松月船主宰の詩誌「朝」の同人となる。
- 昭和2 病気のため郷里と姫路で療養。個人詩誌「野人」を発行。
- 昭和4 再上京。処女詩集『野』を抒情詩社から自費出版。
- 昭和6 第二詩集『メクラとチンパ』を天平書院から自費出版。11月、宮崎みさとを結婚。
- 昭和8 同人誌「海豹」を太宰治らと創刊。同誌に処女作「出石」「うけとり」などを発表。
- 昭和9 太宰治・中原中也らと同人誌「青い花」を創刊。
- 昭和13 「阿佐ヶ谷将棋会」が始まり、以後出席を楽しむとする。
- 昭和14 処女創作集『抑制の日』(赤塚書房)を刊行。
- 昭和19 12月、満洲国農地開発公社嘱託として新京(長春)に赴く。この間、妻子は新山村の実家に疎開。
- 昭和20 8月、現地召集。敗戦により新京で過酷な難民生活を強いられる。
- 昭和21 8月、引揚げ船で佐世保に上陸、新山村に帰郷。以後、井伏鱒二中心の会合を楽しむ。
- 昭和24 単身で上京するも、以後数年心身不調に悩む。
- 昭和27 「木山捷平を激励する会」が、井伏鱒二、河盛好蔵らの発起で開催。自宅を建て、3年ぶりに妻子と同居。
- 昭和32 創作集『耳学問』を芸文書院から刊行。この頃から晩年まで小説・随筆・紀行など多数発表。
- 昭和38 長編『大陸の細道』(前年新潮社刊)により芸術選奨文部大臣賞を受賞。
- 昭和42 第三詩集『木山捷平詩集』を昭森社より刊行。
- 昭和43 8月23日、食道癌のため死去。満64歳。
- 昭和45 郷里笠岡市古城山公園に井伏鱒二他発起で「杉山の松」の詩碑が建立。
- 昭和47 「望郷」の歌碑が生家の庭に建立。
- 昭和63 笠岡市立図書館庭内に「五十年」の詩碑が建立。
- 平成8 笠岡市主催で木山捷平文学賞が制定。同賞は平成17年より全国公募の木山捷平短編小説賞に改められ、継続されている。
- 平成20 日本の名短篇『百年小説』(ポプラ社)に「うけとり」が収録。



捷平と血族を
あらそう春の宵
弟たりがたく
兄たりがたし
銀座日本茶館にて
井伏鱒二

▲井伏鱒二墨跡

昭和16年4月30日木山捷平小説集『昔野』『河骨』出版記念会席上での染筆、友情あふれる賛辞である。



▲『木山捷平全集』全8巻／講談社(昭和53年)